

|               |   |                     |   |        |                            |         |   |
|---------------|---|---------------------|---|--------|----------------------------|---------|---|
| 科目名<br>(科目番号) | 放射線安全教育論<br>(時間割参照)   | 教員名<br>中里 一久        | 学科等   | 診療放射線  | 必修                         | 履修年次    | 2 |
|               |   |                     | 曜日・時限等  | 時間割表参照 |                            | 単位数     | 1 |
|               |   |                     | オフィスアワー   |        | 水5                         | B314研究室 |   |
| 授業概要          | 医療領域の労働環境は科学技術および医療技術の進歩に伴い著しく変化している。この状況の下、「安全」に関する知識および技術の医療従事者への教育・訓練が体系化されていないため、医療現場で生じる初歩的なエラーが医療事故発生の遠縁となっている。医療従事者の診療補助行為は常に危険と隣り合わせであり、セーフティマネジメントが重要となっている。医療現場でのインシデントやアクシデントの発生の要因をヒューマンエラーの側面から科学的に解析し、医療事故の発生を最小限に抑制することが重要である。そこで、医療現場の労働環境の特徴を把握し、ヒヤリ・ハット現象と軽微な医療事故との関係などを理解し、安全な医療を提供するマネジメント学を学習する。 |                     |   |        |                            |         |   |
| 準備学習          | 毎回の授業について少なくとも1時間程度の予習・復習をすること  |                     |   |        |                            |         |   |
| 授業計画          | 回   | 授業項目                | 到達目標・学習内容   |        |                            |         |   |
|               | 1   | 医療安全管理概論            | 到達目標:医療事故防止の観点から見た医療システムの問題点を理解する。<br>学習内容:医療における安全管理の必要性とその実践に不可欠な基礎技術を学ぶ。                                       |        |                            |         |   |
|               | 2   | 医療安全管理の実践論(1)       | 到達目標:人間の行動の特徴をエラー防止対策の観点から理解する。<br>学習目標:医療その他の領域において発生する様々な事故の発生を、マネジメント学側面から解析し、その防止の実践論をハインリッヒの法則等を通じて学ぶ。       |        |                            |         |   |
|               | 3   | 医療安全管理の実践論(2)       | 到達目標:エラーの発生原因のモデルを把握し、エラー防止対策に活用する方法を理解する。<br>学習内容:様々な事故の本質をヒューマンファクターの側面から詳しく解析し、その発生を防止する基礎技術を学ぶ。               |        |                            |         |   |
|               | 4   | 医療安全におけるヒューマンファクターズ | 到達目標:ヒューマンファクター工学について理解する。<br>学習内容:ヒューマンエラーの分類と発生原因を理解する。事故防止に寄与する人間性信頼工学(ヒューマンファクター工学)について学ぶ。                    |        |                            |         |   |
|               | 5   | 人間性信頼工学の活用          | 到達目標:ヒューマンファクター工学の医療安全への活用法を理解する。<br>学習内容:ヒューマンエラーに起因する事故の防止のために、人間性信頼工学(ヒューマンファクター工学)について学ぶ。                     |        |                            |         |   |
|               | 6   | 安全なシステムの構築法         | 到達目標:ヒューマンファクター工学による安全なシステム的设计の基本を習得する。<br>学習内容:人間性信頼工学(ヒューマンファクター工学)を応用することにより、ヒューマンエラーに起因する事故を防止できるシステムの構築法を学ぶ。 |        |                            |         |   |
|               | 7   | 日常業務におけるリスク低減活動     | 到達目標:リスク低減活動におけるインシデント報告の重要性とそれを支える安全文化について理解する。<br>学習内容:医療安全におけるリスク低減活動のための基本行動等について、その具体的な実践活動を学ぶ。              |        |                            |         |   |
|               | 8   | 放射線安全教育論総論          | 到達目標:患者の放射線被ばく低減化と医療安全との両立性について理解する。<br>学習内容:放射線医療における放射線被ばくの実際的な正当化について、国際的な諸問題を学習する。                            |        |                            |         |   |
| 成績評価の方法・基準    | 期末試験(100%)により、評価する。   |                     |   |        |                            |         |   |
| 教科書           | 医療安全へのヒューマンファクターズアプローチ  |                     | 河野龍太郎 著   |        | 日本規格協会(2014)               |         |   |
| 参考図書          | (1)医療安全管理学<br>(2)新版 医療安全管理テキスト  |                     | (1)佐藤幸光,東村亨治 編<br>(2)飯田修平編  |        | (1)オーム社(2017)<br>(2)日本規格協会 |         |   |
| 教員からのメッセージ    | 医療事故は何時でも起こるものと理解することから、放射線診療領域における医療安全を広く考察し、医療人としてのバランス感覚を醸成してもらいたい。  |                     |   |        |                            |         |   |